

# 小杉町埋蔵文化財発掘調査一覽

2003年度



2004年3月

富山県小杉町教育委員会

## 例 言

1. 本書は、平成15年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を課長補佐高橋 登が担当し、課長石黒信明が総括した。
3. 本書に収録の調査は、生涯学習課文化財保護係の原田義範・稲垣尚美が行った。
4. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力を頂いた。記して謝意を表したい。

(敬称略五十音順)

京谷秀夫・黒崎弘治・黒田 勉・黒田 弘・酒井宏彰・佐野敏明・沢田 剛・(宗)浄土真宗親鸞会・田中 明  
寺内丈吉・富山農地林務事務所・西木伸也・松山勇二・宮城澄男・山下 潤・山徳不動産開発(株)・渡辺 亨

5. 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
6. 本書の編集・執筆は原田が行った。

## 目 次

1. 平成15年度の概要	1	ニツ山古墳群 (No⑨)	13
2. 分布調査	2	小杉伊勢領遺跡 (No10)	14
3. 試掘調査	3	中山中遺跡 (No11)	15
4. 工事立会	4	愛宕遺跡 (No1)	16
水蔵場Ⅰ遺跡 (No①)	5	太閤山ランド内No26遺跡 (No4)	16
H S-04遺跡 (No⑫)	5	赤田Ⅰ遺跡 (No⑤)	17
塚越大沢遺跡 (No③)	6	赤田Ⅰ遺跡 (No⑩)	17
塚越大沢Ⅱ遺跡 (No④)	6	開山南遺跡 (No②)	18
畑総No23遺跡 (No⑦)	7	赤田Ⅰ遺跡 (No3)	19
塚越大沢遺跡 (No⑧)	7	赤田Ⅰ遺跡 (No⑬)	19
畑総No24遺跡 (No5)	7	赤田Ⅰ遺跡 (No⑬)	20
黒河尺目遺跡 (No2)	10	5. 本発掘調査	21
黒河南遺跡 (No9)	10	赤田東遺跡一町道二の井赤田線- [No1]	21
黒河南遺跡 (No6・7)	11	赤田東遺跡一統合小学校- [No3]	23
黒河尺目遺跡 (No⑩)	12	水蔵場Ⅰ遺跡 [No2]	24
十社宮遺跡 (No⑤)	12	6. 普及・活用	25
黒河西山遺跡 (No8)	13		

※遺跡名右側のNoは ( ) が試掘調査、[ ] が本発掘調査の一覧表の番号を示す。

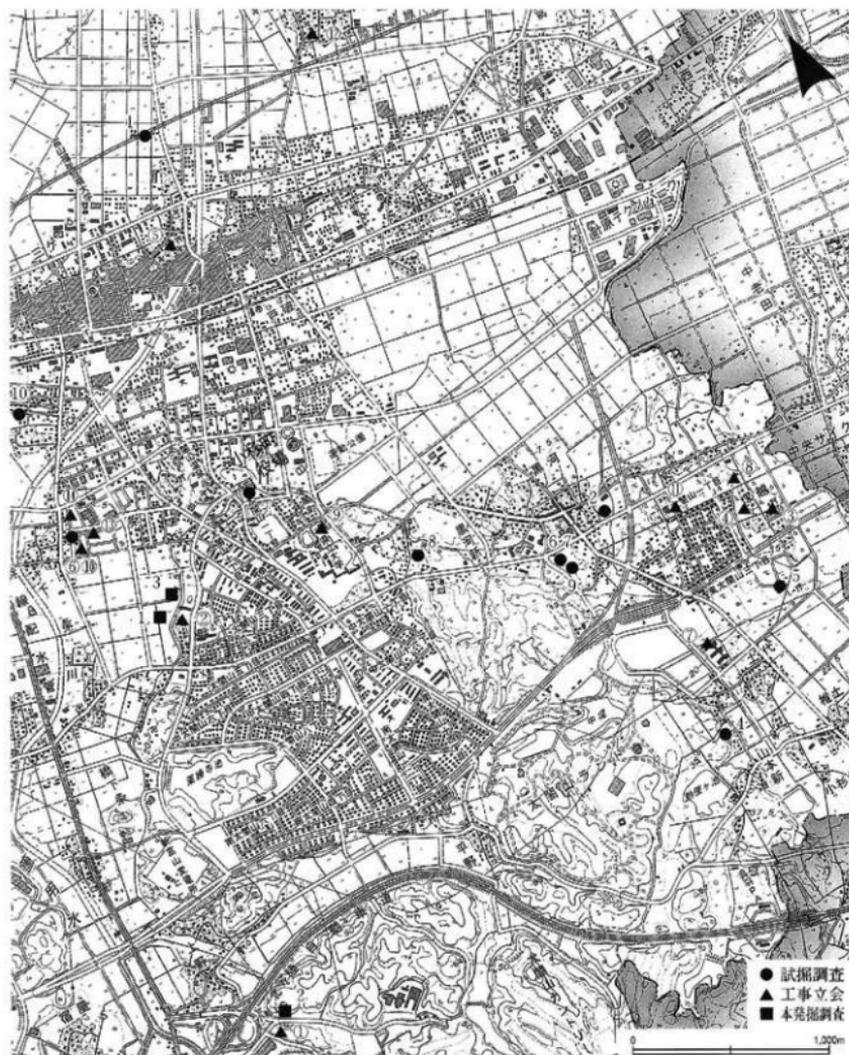
## 凡 例

1. 本文中、発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりである。
- ▲ 石器・石製品   □ 弥生土器   ▽ 土師器   △ 須恵器   ■ 珠洲   ☒ 中世土師器  
○ 中世陶器・磁器   ⊗ 近世陶器・磁器   T トレンチ   ▨ 遺構

※表紙写真は赤田東遺跡(町道二の井赤田線)の空中写真

## 1. 平成15年度の概要

平成15年度に小針町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布調査14件、試掘調査11件、本発掘調査3件であった。本発掘調査は全て公共事業、試掘調査は公共事業2件・民間開発5件・個人住宅等4件となった。



第1図 調査位置図 (1 : 25,000)

注：数字は調査一覧表の番号を示す。

## 2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地及び未踏査区域で行われる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議し事前に分布調査を実施している。

分布調査とは、調査員が現地を踏査し、遺物の散布状況や地形等から埋蔵文化財包蔵地の範囲を推定する調査で、包蔵地内である場合は試掘調査を行うことになるが、包蔵地外である場合は開発を実施してもよいことになる。平成15年度に実施した分布調査は14件であり、うち1件で試掘調査が必要と判断し、開発側への対応としている。

周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図（1万分の1）に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けられており、分布調査で新たに発見された遺跡は新規に登録され、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No.	所在地	原因	調査日	対象面積	対象地の種別	現況	探査遺物	開発への対応
1	野手21外4筆	駐車場の拡張	H15. 4. 7	2,354㎡	未踏査地	標高約20mの水田		開発の際、遺構・遺物が発見された場合協議
2	浄土寺字後山1295-1外2筆	住宅敷地の拡張	H15. 4. 7	216㎡	未踏査地	標高約15mの既存宅地		既存宅地のため踏査不可
3	下条961外1筆	(計画地)	H15. 4. 14	1,638㎡	赤田1遺跡と赤田東遺跡に隣接	標高約6.5～7.3mの水田		支障なし
4	上野221外2筆	町民広場の拡張	H15. 5. 2	1,663㎡	未踏査地	標高約8.5mの荒蕪地		開発の際、遺構・遺物が発見された場合協議
5	土代字宮ノ前1680外1筆	個人住宅建設	H15. 5. 30	102㎡	未踏査地	標高約19.3mの既存宅地		既存宅地のため踏査不可
6	稲穂598-1	資材置場建設	H15. 7. 28	139㎡	未踏査地	標高約2.5mの畑地		支障なし
7	稲穂697-2	敷地拡張	H15. 7. 28	72㎡	未踏査地	標高約2.4mの畑地		支障なし
8	上野422	資材置場建設	H15.10. 1	1,165㎡	未踏査地	標高約24.8mの造成地		盛土済のため踏査不可
9	池多632-2	個人住宅建設	H15.11. 4	308㎡	未踏査地	標高約24.8mの造成地		盛土済のため踏査不可
10	鷲塚784-3	農地格納庫農作業場建築	H15.11. 4	198㎡	鷲塚村中遺跡周辺	標高約2.2mの水田		支障なし
11	三ヶ881外4筆	「働く婦人の家」の駐車場	H15.11.13	663㎡	未踏査地	標高約3.8mの畑地		盛土済のため踏査不可
12	白石517-3外1筆	個人住宅建設	H15.12.11	460㎡	未踏査地	標高約1.8mの畑地		盛土済のため踏査不可
13	黒河38外10筆 戸破415外10筆	県道小杉峠中継建設	H15.12.12	22,000㎡	針原西遺跡に隣接	標高約2.8～3.3mの水田	弥生土器・須恵器中・近世陶磁器	試掘調査必要
14	土代字宮ノ前1700	農家住宅敷地拡張	H16. 1. 21	95㎡	未踏査地	標高約20mの住宅敷地		盛土済のため踏査不可
計 14件				延べ 11日間	対象面積 31,073㎡			

第1表 分布調査一覧

### 3. 試掘調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地内で行われる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議し事前に試掘調査を実施している。

試掘調査とは、対象地に重機もしくは人力でトレンチと呼ばれる試掘溝（幅約0.8～1.0m、深さは状況に応じ調査員が判断する）を設定し、トレンチ内を精査し観察することにより遺構や遺物の出土層位を確認し、遺跡の有無や内容を把握することを目的として行う調査である。

平成15年度に実施した試掘調査は9遺跡11件であり、全件で本発掘調査の必要無しと判断し開発側へ対応している。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	愛宕 (381002)	三ヶ471-4	店舗併用住宅 建築	H15. 4.18 (延べ1日)	338.88㎡	12㎡	散布地		弥生土器 須恵器・珠洲	支障なし
2	黒河尺目 (381044)	黒河字尺目 2471-3	農家分家住宅 建築	H15. 4.21 (延べ1日)	476㎡	62㎡	集落		縄文土器・須恵器 土師器・近世磁器	支障なし
3	赤田Ⅰ (381301)	下条1332外1筆	土地区画 整備事業	H15. 5. 9 (延べ1日)	457㎡	36㎡	祭祀 散布地	溝3条	土師器・陶磁器	支障なし
4	太閤山 ランド内 No.25 (381141)	山本新字川向 618-2 土代字堀田高 2688-2	住宅建築	H15. 6. 3 (延べ1日)	586.24㎡	12㎡	散布地 製鉄			支障なし
5	郷総No.24 (381084)	黒河新土代尻 1335外7筆	県営畑地帯 総合整備事業	H15. 6. 5 ～ 7. 3 (延べ8日)	1,040㎡	232㎡	散布地	箱型製鉄炉1基 土坑9基、溝1条 小土坑3基	縄文土器・土師器 伊壁・鉄滓	支障なし
6	黒河南 (381067)	黒河字尺目 3005-1	盛土工事	H15. 7. 8 (延べ1日)	647㎡	43㎡	散布地		須恵器・土師器 鉄滓・かんざし 近世陶磁器	支障なし
7	黒河南 (381067)	黒河字尺目 3012-1	農作業場建築	H15. 7. 8 (延べ1日)	96㎡	15㎡	散布地		須恵器・土師器 鉄滓・かんざし 近世陶磁器	支障なし
8	黒河西山 (381041)	黒河字尺目小谷 4630-1外2筆	擁壁及び盛土 工事	H15.10.20 (延べ1日)	772㎡	60㎡	散布地 製鉄	溝3条	縄文土器・弥生土器 須恵器・土師器 鉄滓・中世陶器 近世陶器	支障なし
9	黒河南 (381067)	黒河字尺目 3017-4外3筆	農家住宅建築	H15.12.10 (延べ1日)	469㎡	31㎡	散布地 製鉄	溝1条	須恵器・土師器 鉄滓・中世陶器 近世陶磁器	支障なし
10	小杉伊勢園 (381027)	三ヶ2297-1 外2筆	宅地造成	H16. 3. 4 (延べ1日)	2,955㎡	245㎡	散布地		石斧・弥生土器 須恵器・近世陶器	支障なし
11	中山中 (381035)	太閤山1-131 外1筆	高齢者ふれあ い健康農園整 備（駐車場）	H16. 3.30 (延べ1日)	3,498㎡	56.5㎡	散布地	貼床住居の残床 土坑	縄文土器・弥生土器 須恵器（奈良時代）	支障なし
計	9遺跡 11件			延べ17日間	対象面積 11,335.12㎡	発掘面積 804.5㎡				

第2表 試掘調査一覧

#### 4. 工 事 立 会

平成15年度に実施した工事立会は11遺跡14件で、公共事業7件・民間開発1件・個人住宅6件であった。水蔵場I遺跡では遺構が確認されたため、精査後に平板測量により検出状況を記録した。その他の遺跡においては、支障なしと判断し開発を実施している。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
①	水蔵場 I (381210)	上野字瀧谷 1132-4外2筆	土地改良総合 整備事業	H15. 5. 1 ～ 5.23 (延べ3日)	240㎡	240㎡	散布地	土坑3基 伊の鉄滓破棄場 1箇所	石斧状石製品 箱型製鉄伊の伊 壁と鉄滓	支障なし
②	開山南 (381056)	太閤山7-99外1筆	住宅建築	H15. 5. 2 (延べ1日)	562㎡	33㎡	散布地			支障なし
③	塚越大沢 (381078)	塚越字新堤235外	県営畑地帯総 合整備事業	H15. 5.12 (延べ1日)	175㎡	25㎡	製鉄			支障なし
④	塚越大沢II (381077)	塚越字大沢424 外1筆	県営畑地帯総 合整備事業	H15. 5.14 (延べ1日)	60㎡	18㎡	散布地			支障なし
⑤	十社宮 (381021)	三ヶ1753	伊勢神宮遷拜 所新設工事	H15. 8.22 (延べ1日)	13㎡	13㎡	散布地			支障なし
⑥	赤田 I (381301)	赤田土地区画整理 事業地12街区17番	個人住宅建築	H15.10.20 (延べ1日)	232㎡	113㎡	祭祀 散布地			支障なし
⑦	畑籠No.23 (381083)	池多278-3外	県営住宅外構 工事	H15.10.21 ～ 10.29 (延べ5日)	3,991㎡	3,991㎡	散布地			支障なし
⑧	塚越大沢 (381078)	塚越字新堤277-3 外	県営畑地帯総 合整備事業	H15.10.29 ～ 11. 5 (延べ3日)	500㎡	188㎡	製鉄			支障なし
⑨	二ツ山 古墳群 (381037)	黒河5180	ビニールハウス 設置に伴う掘削 工事	H15.11.14 ～ 11.18 (延べ2日)	250㎡	250㎡	古墳			支障なし
⑩	赤田 I (381301)	赤田土地区画整理 事業地11街区20番	個人住宅建築	H15.12. 1 (延べ1日)	217㎡	123㎡	祭祀 散布地			支障なし
⑪	黒河尺目 (381044)	塚越字大沢843-2 外	県営畑地帯総 合整備事業	H16. 1.14 (延べ1日)	100㎡	35㎡	集落			支障なし
⑫	H S-04 (381004)	大江529-1外1筆	個人住宅建築	H16. 1.24 (延べ1日)	612㎡	240㎡	散布地			支障なし
⑬	赤田 I (381301)	赤田土地区画整理 事業地11街区15番	個人住宅建築	H16. 3.22 (延べ1日)	236㎡	104㎡	祭祀 散布地			支障なし
⑭	赤田 I (381301)	赤田土地区画整理 事業地4西区7-8番	個人住宅建築	H16. 3.29 (延べ1日)	392㎡	153㎡	祭祀 散布地			支障なし
計	11遺跡 14件			延べ 23日間	対象面積 7,580㎡	発掘面積 5,526㎡				

第3表 工事立会一覧

### 水蔵場 I 遺跡 (No.1)

遺跡は金山丘陵の竹林斜面地に立地し、標高は約13～17mである。検出した遺構は、土坑3基・箱型製鉄炉の鉄滓廃棄場1箇所であり、古代の鉄生産に関連する遺構であると考えられる。遺物は石斧状石製品、箱型製鉄炉の炉壁・鉄滓が出土している。



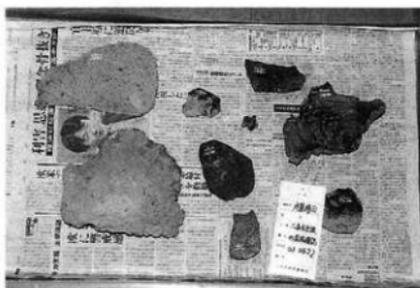
第2図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 1 調査風景



第3図 発掘区



P.L. 2 出土遺物

### HS-04遺跡 (No.12)

対象地は下条川右岸の標高約3mに立地する。遺構・遺物共に確認されなかったため、保護措置を要する遺跡の広がりは見られないものとする。



第4図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 3 調査風景

### 塚越大沢遺跡 (No③)

対象地の現況は畑地で、標高約13.5mに立地する。調査は県営畑地帯総合整備事業塚越区画整理工事に伴い実施した。土層は上から1層が黒色の耕作土 (30~50cm)、2層が暗黄褐色の漸移層 (5~10cm)、3層が黄灰褐色の地山である。遺構確認は3層上面で行った。今回の対象地は、平成14年度に実施した同工区内の試掘調査で植樹地となっていて対応できなかった箇所である。遺構確認面は樹木の伐根等による擾乱もなく良好であったが、遺構・遺物は全く確認できなかった。



第5図 発掘区

### 塚越大沢Ⅱ遺跡 (No③)

対象地の現況は竹林で、標高約14mに立地する。調査は県営畑地帯総合整備事業塚越区画整理工事に伴い実施した。土層は上から1層が黒色の耕作土 (35~40cm)、2層が暗黄褐色の漸移層 (0~5cm)、3層が黄灰褐色の地山である。調査地西端から3~6mの間は、パイプライン敷設時埋土跡となっている。以東の遺構確認面は良好であったが、遺構・遺物は確認できなかった。



第6図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 4 調査風景



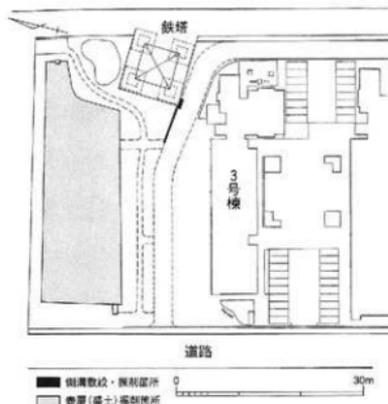
P.L. 5 調査風景

#### 畑総No.23遺跡 (No.7)

対象地内において地山に掘削が及んだのは、鉄塔付近の一部であった。その深さは約10～20cmであったが、遺構や遺物は検出されなかった。



PL. 6 掘削断面



第7図 発掘区

#### 塚越大沢遺跡 (No.8)

調査は県営畑地帯総合整備事業に伴い実施した。土層は上から1層が舗装(0～5cm)、2層が黄褐色の山砂客土(35～70cm)、3層が碎石混じりの黒褐色土(0～20cm)、4層が黒色の自然堆積土(0～90cm)、5層が青灰色又は黄褐色の地山である。遺構確認は5層上面で行った。遺構確認面は樹木の伐根等による擾乱もなく良好であったが、遺構・遺物は確認できなかった。



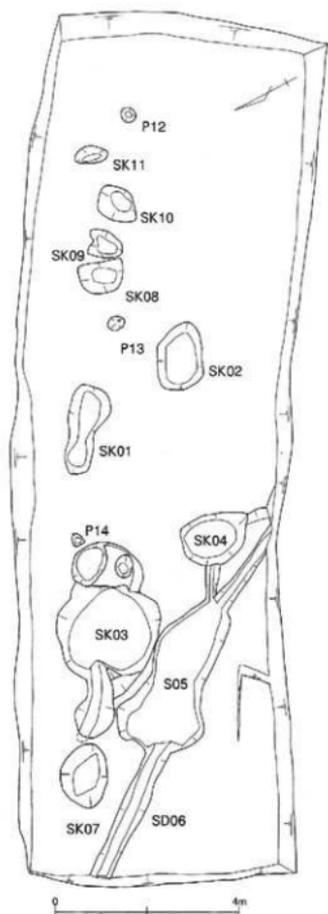
PL. 7 調査風景

#### 畑総No.24遺跡 (No.5)

遺跡北部の標高約17mに立地している。地山は黄灰褐色又は黄褐色粘質土である。1トレンチ西端から約20mの間に鉄滓や伊壁が混在する土坑や溝を検出したため、工事幅分にトレンチを拡張し、遺構精査後に引き続き調査を行い記録保存とした。箱型製鉄炉(S05)は3.2m×1.2mの広さで伊床が遺存しており、隣接する土坑(SK03)は製鉄作業場と考えられる。



第8図 発掘区



第9図 拡張区遺構配置図



PL. 8 調査対象地 (南東から)



PL. 9 調査風景

遺構	鉄滓	炉壁	遺構	鉄滓	炉壁
SK03	59,800	1,200	S05	1,300	250
SK03A区	142,450		S05A区	3,300	350
SK03B区	160,850		S05B区	900	
SK03B区あぜ	20,750		S05C区	1,150	
SK03C区	2,900		S05D区	350	200
SK03C区あぜ	59,450		S05底面	67,750	26,550
SK03D区	52,000		小計	74,650	27,350
SK03D区あぜ	21,400	400	SD06Aセク	100	
SK03E区	7,150	1,500	SD06B区	850	200
SK03南北セク	6,100		小計	950	200
小計	532,850	3,100	不明	9,100	
			合計	617,550	30,650

第4表 鉄滓・炉壁重量表

表中の単位はg



PL. 10 出土遺物 (土器)



PL. 11 出土遺物 (鉄滓)



PL. 12 出土遺物 (炉壁)

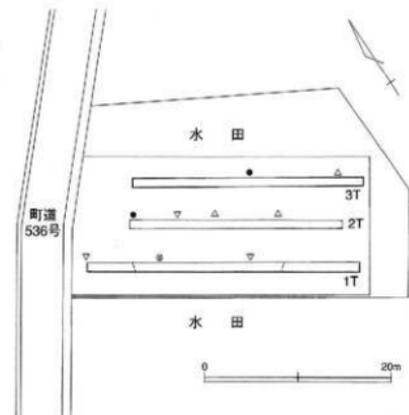


### 黒河尺目遺跡 (No.2)

トレンチ西側は川跡状の砂礫堆積が見られ、東側は暗茶褐色の比較的安定した地山である。出土遺物は周辺からの流れ込みと考えられ、遺構も確認できなかった。



第11図 調査位置図 (1 : 10,000)



第12図 発掘区



P. L. 13 調査地近景 (西から)



P. L. 14 出土遺物

### 黒河南遺跡 (No.9)

調査地は西側が丘陵緩斜面端部、東側は台地状地形に挟まれた谷部に位置し、段状に水田が広がる。

安定した地山は、1トレンチ南端付近に見られるが、北側(谷)に向かってしだいに深くなり、谷を埋め尽くした砂礫の土壌に変化している。遺物は須恵器・土師器・鉄滓・青磁・近世陶磁器が出土している。古代から近世までの遺物が混在しており、土砂の堆積時に周辺から流入したものと考えられる。



第13図 発掘区



P L. 15 調査風景



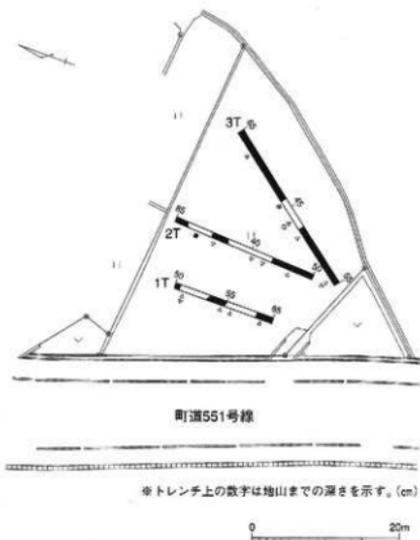
P L. 16 出土遺物 (古代)

黒河南遺跡 (No.6・7)

検出した遺構は自然小河川跡と考えられる。底面には砂質土や小砂利の堆積が見られ、古代の須恵器・土師器等の遺物が主に出土している。掘出地において計画どおり工事を実施しても支障ないが、現況地盤から深さ50cm以上の掘削を行う場合は、記録保存が必要となる。



P L. 17 調査風景



第14図 発掘区



P L. 18 出土遺物 (土師器)



P L. 19 出土遺物 (須恵器)

### 黒河尺目遺跡 (No.11)

調査は県営畑地帯総合整備事業に伴い実施した。土層は上から1層が舗装(5cm)、2層が碎石(12cm)、3層が黄褐色山砂の造成盛土(40~50cm)、4層が黒色の旧表土(15~30cm)、5層が灰黄褐色の地山である。遺構確認は4層及び5層上面で行った。地山は東側が高く、西側に向かいだいに低くなる。周辺の地形等高線から見ると、対象地西側に浅い谷が入り込んでいるものと考えられる。遺構・遺物共に確認できなかった。



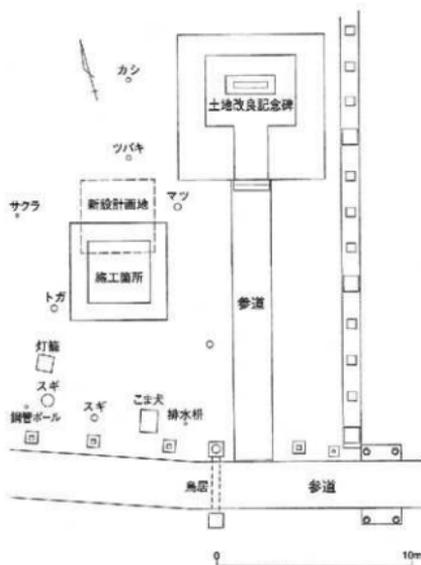
P.L. 20 調査対象地(西から)

### 十社宮遺跡 (No.5)

伊勢神宮遙拝所新設の基礎施工に係る掘削の深さは、現況地盤から約25cmであった。土層は上から1層が地鎮祭に使用した黄褐色の山砂(5cm)、2層が境内を整地した時期の碎石を含む黒褐色の盛土(10cm)、3層が暗茶褐色の地山である。鉄分を含んだ湧水などの影響により上色に赤化が見られた。地山面の掘削は、深さ10cmまでであったが遺構・遺物は確認できなかった。



第16図 調査位置図(1:10,000)



第15図 発掘区



P.L. 21 調査対象地(南から)



P.L. 22 調査風景

### 黒河西山遺跡 (No.8)

対象地は幅約50mの谷部に立地し、東西はやや急傾斜となった小丘陵に囲まれている。今回出土した古代の土器や鉄滓は、丘陵西斜面で確認された窯業及び鉄生産遺構の土砂が谷へ流れ込んだものと考えられる。



第17図 調査位置図 (1:10,000)



第18図 発掘区



P.L. 23 調査地近景 (南東から)



P.L. 24 出土遺物

### 二ツ山古墳群 (No.9)

掘削工事は現況から最深部で2mであったが、旧地形の地山掘削ではなく、技術短期大学建設時に排出した土砂を累積し、整形した箇所であったと考えられる。



P.L. 25 調査対象地 (北から)



第19図 発掘区

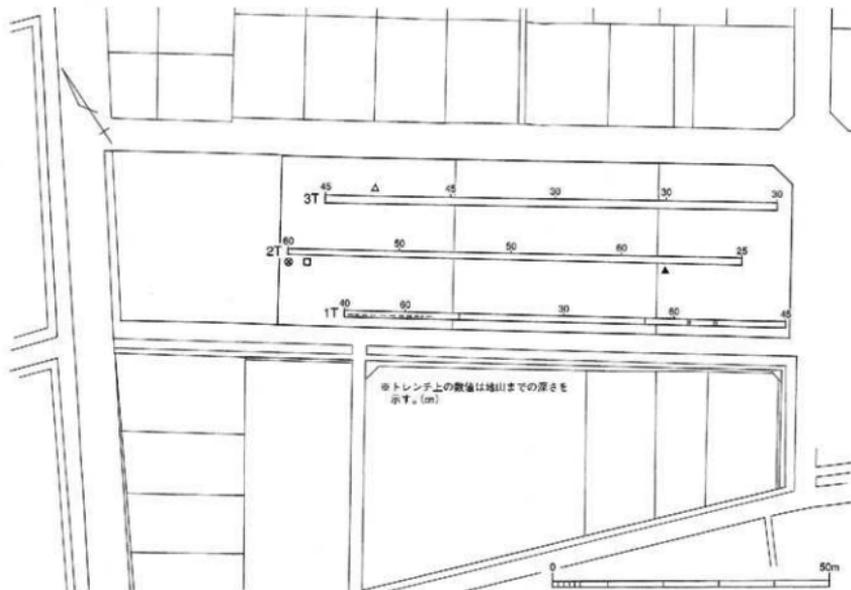
小杉伊勢領遺跡 (No.10)

遺跡は下条川左岸沿いの標高約4.7mに立地する。平成4年の宅地造成に先立つ試掘調査及び本発掘調査により、対象地北側で弥生時代終末期～古墳時代初頭と奈良～平安時代の2時期の集落跡が確認されている。また東側隣接地では、縄文時代中期の土器や石斧が出土している。

今回の調査では前述の時代に関連した遺構もなく、遺物も散発的であり、工事を実施しても支障はない。



第20図 調査位置図 (1:10,000)



第21図 発掘区



P L. 26 調査風景



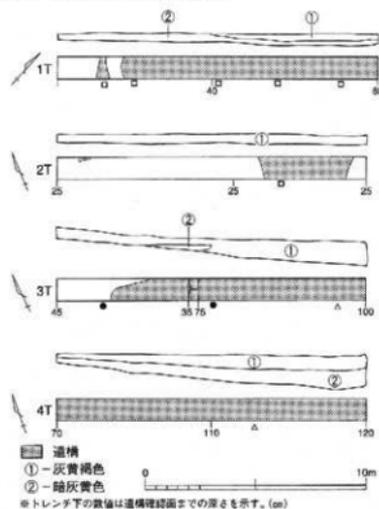
P L. 27 出土遺物

### 中山中遺跡 (No.11)

検出した粘床は、地山の土壌をほぼ水平に敷き詰めたものと考えられる。遺物は上層から須恵器、弥生土器、縄文土器の順に出土している。



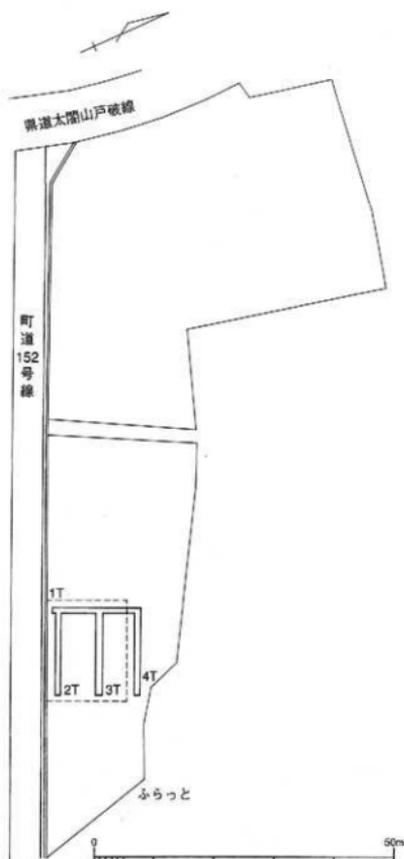
第22図 調査位置図 (1:10,000)



第23図 平面及び断面図



P.L. 28 調査地近景 (西から)



第24図 発掘区



P.L. 29 出土遺物

### 愛宕遺跡 (No.1)

平成10年に北側約200mで弥生時代後期と中世の集落遺構を調査済みであるが、対象地では確認できなかった。



第25図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 30 調査地近景 (東から)

### 太閤山ランドNo.26遺跡 (No.4)

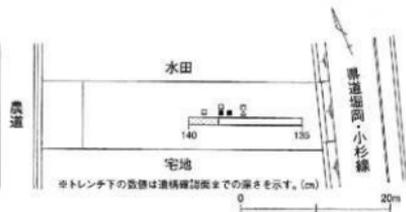
対象地の町道沿いは、削平以前の旧地形が部分的に遺存していると考えられるが、遺構を確認できなかった。



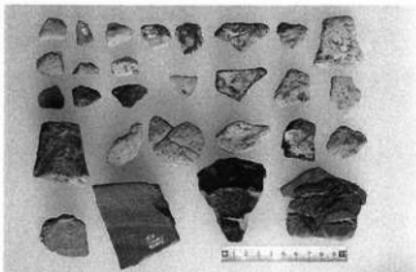
第27図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 32 調査対象地 (南東から)



第26図 発掘区



P.L. 31 出土遺物



第28図 発掘区

### 赤田 I 遺跡 (No.⑥)

対象地は赤田土地区画整理事業に伴う試掘調査により、地下に遺構等が確認されているので、これを保存するために造成盛土を行った区域である。

住宅建築の基礎施工にかかる掘削の深さは、現況地盤（盛土高）から約40cmで、旧地表面上面までであった。

地下遺構には影響がなかったため、今回の建築方法においては支障なく工事を実施した。



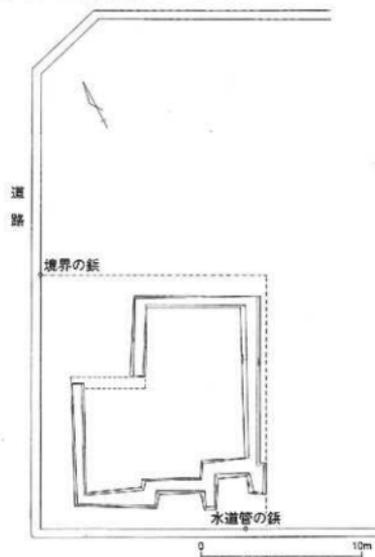
第29図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 33 調査地近景 (南から)



P.L. 34 掘削状況 (南から)

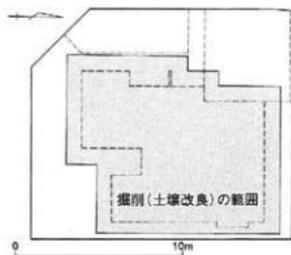


第30図 発掘区

### 赤田 I 遺跡 (No.⑩)

対象地は赤田土地区画整理事業に伴う試掘調査により、掘削工事で遺構等が確認された場合、その記録をとる措置が必要な立会区域である。

住宅建築の土壌改良にかかる掘削の深さは、現況地盤（盛土高）から約1.1mで、旧地表面からは0.5mであった。この深度で遺構・遺物を確認できなかったため、今回の建築方法においては支障なく工事を実施した。



第31図 発掘区



P.L. 35 調査対象地（北から）



P.L. 36 掘削状況

### 岡山南遺跡 (No.2)

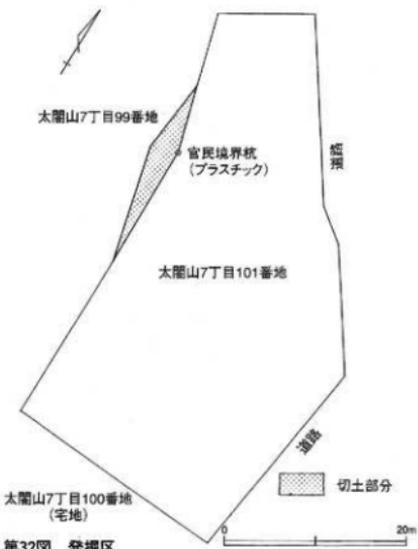
遺跡は県指定史跡の岡山遺跡から谷を挟んで、南西約60mに立地する小丘陵となっているが、その実態は不明である。旧表土は約10cmしか堆積しておらず、遺構を確認することはできなかった。遺物は丘陵斜面の畑地で古墳時代の土師器片を採集している。



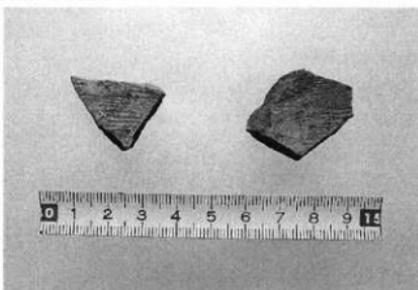
P.L. 37 調査地近景（北から）



P.L. 38 調査風景（東から）



第32図 発掘区



P.L. 39 出土遺物（土師器）

### 赤田 I 遺跡 (No.3)

検出した溝3条は、幅0.5m～1.0mで東西方向へのびる。いずれも黒茶褐色粘質土の覆土で、昭和30年代圃場整備以前の水路跡の淡黒色土とは異なっている。このため2種類の溝には時代差があると考えられたが、溝から遺物が出土しなかったため、その時代を特定することはできなかった。遺構外からは土師器・近世陶磁器が出土した。



P L. 40 調査地近景 (北東から)

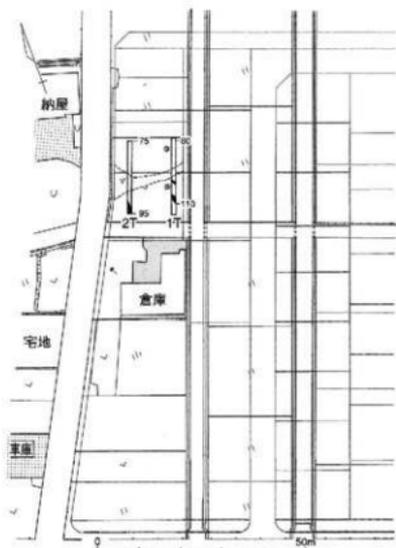


P L. 41 掘削断面

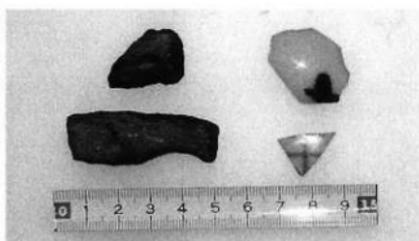
### 赤田 I 遺跡 (No.①)

対象地は赤田土地区画整理事業に伴う試掘調査により、掘削工事で遺構等が確認された場合、その記録をとる措置が必要な立会区域である。

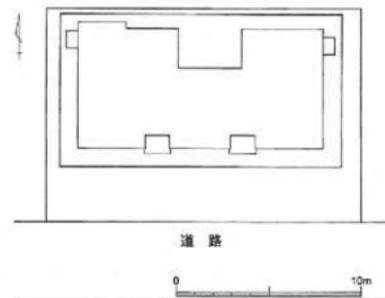
住宅建築の土壌改良にかかる掘削の深さは、現況地盤（盛土高）から約1.5mであった。掘削断面より土層は6層に細分され、黄灰色粘質土の地山面においては、遺構及び遺物は確認できなかった。



第33図 発掘区



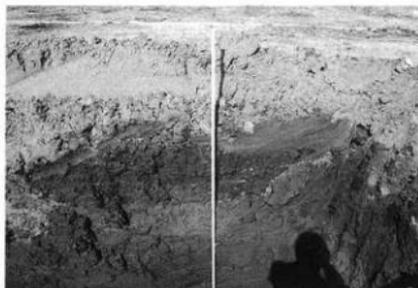
P L. 42 出土遺物



第34図 発掘区



P L. 43 調査対象地（北西から）



P L. 44 掘削断面

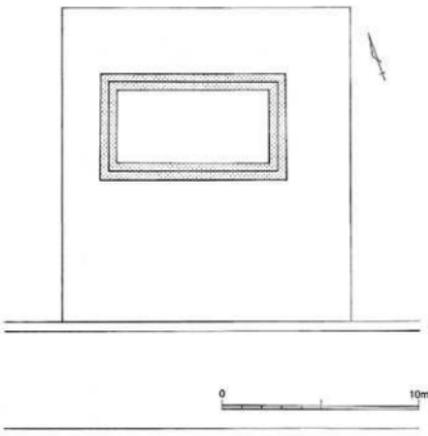
#### 赤田 I 遺跡 (No.13)

対象地は赤田土地区画整理事業に伴う試掘調査により、掘削工事で遺構等が確認された場合、その記録をとる措置が必要な立会区域である。

住宅建築の基礎工事にかかる掘削の深さは、現況地盤（盛土高）から約0.3mで、旧地表面が一部で現れる深さであった。この深度では遺構や遺物は確認できなかった。



P L. 45 調査地近景（東から）



第35図 発掘区



P L. 46 掘削断面

## 5. 本発掘調査

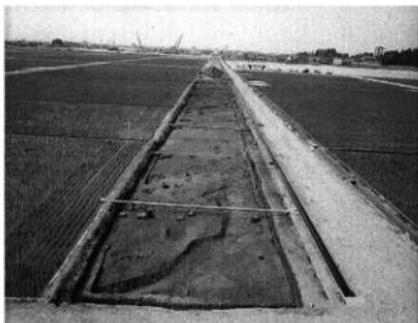
平成15年度に実施した本発掘調査は2遺跡3件であった。調査の原因は全て公共事業で、町道整備事業が2件、統合小学校建設事業が1件であった。

No	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物
1	赤田東 (381053)	下条897外	町道二の井赤田線 道路整備事業	H15. 4.23~11.27 (延べ43日)	1,600㎡	散布地	溝・土坑(古墳) 溝・土坑(奈良~平安)	弥生土器・石器・土師器・ 須恵器・中世・近世陶磁器
2	本蔵場Ⅰ (381210)	上野瀧谷 1133~2外	町道315号線付替え 工事	H15. 5. 6~ 5.30 (延べ15日)	200㎡	製鉄	炭焼窯・土坑	土師器・須恵器・銚子・鉄 滓・羽口・が壁
3	赤田東 (381053)	下条926外	統合小学校建設	H15. 9.17~12. 1 (延べ37日)	750㎡	散布地	川跡・土坑	縄文土器・石器・弥生土器 須恵器・珠洲・近世陶磁器
計	2遺跡 3件			延べ 95日間	発掘面積 2,550㎡			

第5表 本発掘調査一覧

### 赤田東遺跡(町道二の井赤田線) [No.1]

遺跡は弥生土器から近世陶磁器までの遺物が確認されたが、遺構の中心となる時代は弥生時代中期~後期と古代の2時期であった。S D02は平地式建物の周溝であると考えられる。調査区外へへのびるため正確な規模や柱穴配置を捉えることができなかったが、溝から出土した土器より、弥生時代中期後半の埴師時代と考えられる。



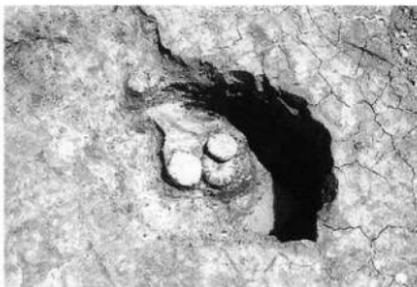
P.L. 47 発掘区



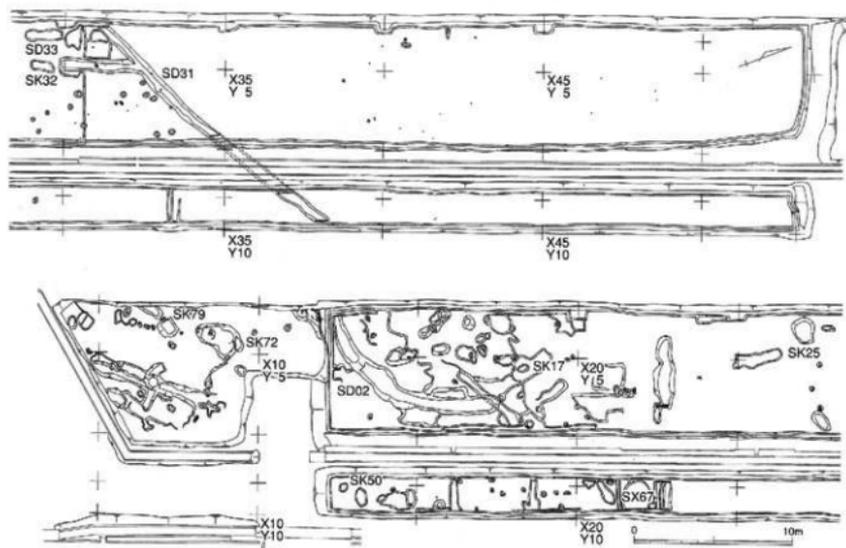
第36図 調査位置図(1:10,000)



P.L. 48 調査風景



P.L. 49 遺物出土状況



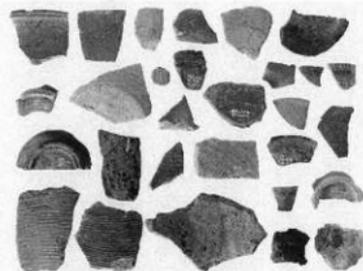
第37图 发掘区



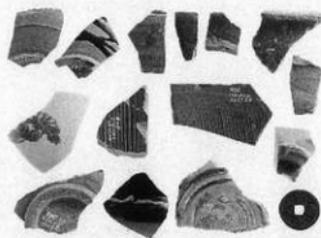
P L. 50 出土遗物 (石器)



P L. 51 出土遗物 (弥生土器)



P L. 52 出土遗物 (须惠器・珠洲)

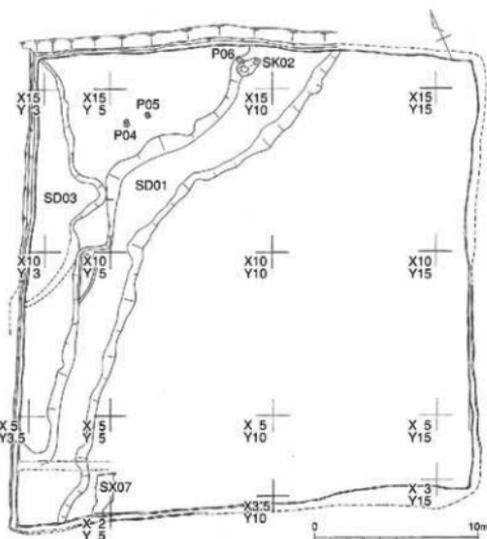


P L. 53 出土遗物 (中、近世陶磁器・古銭)

赤田東遺跡（統合小学校）〔No.3〕

平成13年度の試掘調査結果から、計画敷地内の遺構が確認された範囲にグラウンドを配置し、盛土保存を行った。しかし、地下遺構に影響が及ぶプール建設予定地については、今年度にも本発掘調査を実施した。

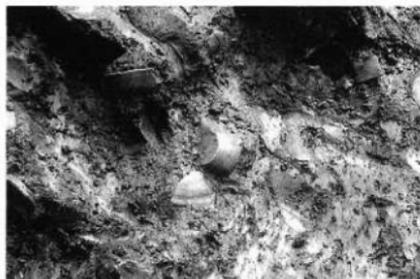
遺跡は県指定史跡の圓山遺跡がある小丘陵下、標高約8mの平野部に立地する。検出された遺構は自然河川や土坑のみで、住居跡は確認されなかった。地山の窪地であろうSX07からは、9世紀後半の土師器碗がまとまって出土した。遺物はこの他に須恵器（坏・坏蓋・壺・甕・横瓶・双耳瓶・水瓶）・珠洲（壺・甕・片口鉢）・中世土師器皿・青磁碗・近世陶磁器・木製品等が包含層より出土している。試掘調査では「冨」墨書を施す須恵器坏も2点あった。



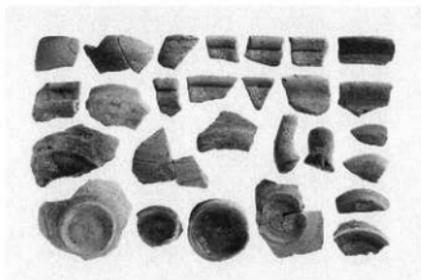
第38図 発掘区



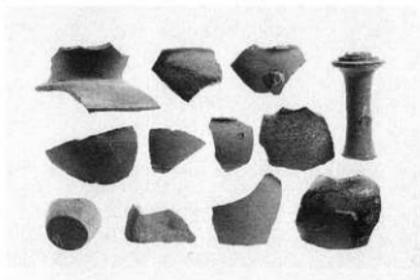
P L. 54 調査風景



P L. 55 遺物出土状況



P L. 56 出土遺物（土師器）



P L. 57 出土遺物（須恵器）

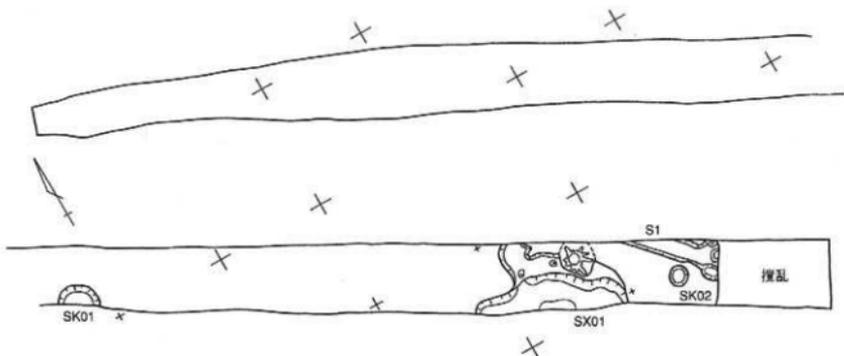
水蔵場1遺跡 [No.2]

遺跡は下条川右岸に形成された樹枝状丘陵の縁辺部に立地し、標高約22m～24mである。周辺には炭焼きや鉄精錬などに関連する生産遺跡が密集している。

確認された遺構は、炭焼窯1基、焼壁土坑2基、不明遺構1基である。炭焼窯は半地下式の構造で窯体のうち残存するのは焚口から中央部分に至る約3.5mであり、調査区内には奥壁及び煙道は確認されなかった。窯体内の側壁は被熱により硬化し赤色酸化状態を示していた。近接する遺跡の炭焼窯と類似構造をもち、10～11世紀に属すると考えられる。遺物は鉤型（獸脚・容器）・羽口・炉壁・鉄滓等の製鉄関連が多く出土している。



第39図 調査位置図 (1:10,000)



第40図 発掘区



P L. 58 発掘区



P L. 59 出土遺物 (鉤型)

## 6. 普及・活用

### (1) 埋蔵文化財整理室での作業

整理室では本年度に本発掘調査を実施した水蔵場Ⅰ遺跡と赤田東遺跡（町道・統合小学校）2件分の水洗・注記・復元・実測・トレースなどの他、分布調査や試掘調査で出土した遺物の水洗・注記・検査を行った。また、未刊行の発掘調査報告書の作成作業も行った。

### (2) 埋蔵文化財整理室の見学

平成15年度には次の見学があった。5月16日文教厚生常任委員会（26名）、6月18日小杉小学校6年生（103名）、6月25日新浜放生津文化振興会（43名）、7月27日富山歴史散歩の会（27名）、7月29日小杉小学校5年生（89名）、8月3日高山歩こう会（42名）、8月29日県町村議連会（22名）、9月10日小杉俳句会（13名）、9月26日小杉中学校2年生（30名）、10月1日小杉黒河おたっしゅクラブ（19名）、10月7日富山市民市民学習センター（23名）、10月13日京都市京友会・木曜会（17名）、10月19日小杉宝町町内会（30名）、11月14日城端町農業委員会（7名）、11月19日小杉中太閤山ふれあいサロン寿クラブ（15名）、2月29日福光建築業協議会（30名）、このほか11月1日～24日において、発掘速報展 赤田Ⅰ遺跡—古代の祭祀—を小杉町民展示館で開催し、168名の見学があった。



発掘速報展ポスター

### (3) 報告書の刊行

平成15年度事業として、小杉町教育委員会が2004年3月までに刊行したものは以下のとおりである。

- ①『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2003年』（A4版30頁）
- ②『赤田東遺跡発掘調査概要 —町道二の井赤田線道路新設工事に先立つ埋蔵文化財調査—』（A4版64頁）
- ③『水蔵場Ⅰ遺跡発掘調査報告書 —町道315号線付替え工事に伴う埋蔵文化財調査—』（A4版16頁）

分布調査				試掘調査			本発掘調査		
年度	件数	対象面積 (㎡)	延べ調査 日数	件数	対象面積 (㎡)	延べ調査 日数	件数	調査面積 (㎡)	延べ調査 日数
5	12	16,865	7	4	13,976	15	6	12,286	362
6	17	114,806	15	8	103,752	18	3	5,304	148
7	27	83,761	21	19	40,010	29	1	400	49
8	29	51,502	17	13	26,279.3	27	6	6,695	296
9	44	80,519	27	15	143,969.55	58	3	3,571	219
10	36	58,797	19	15	71,705	36	3	2,767	50
11	24	61,933.96	18	15	56,278.5	39	2	1,253	60
12	22	37,193.83	22	15	21,911.19	35	2	2,080	102
13	16	165,202.84	20	8	35,693.05	31	5	10,620	295
14	18	10,283.20	12	16	102,166.18	49	2	4,374	119
15	14	31,073	11	11	11,335.12	17	3	2,550	95

第6表 小杉町埋蔵文化財発掘調査件数などの年度別推移（町教委主体調査）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平日分	人数	18	56	164	148	75	67	129	65	11	25	8	13
		(累計)	74	238	386	461	528	657	722	733	758	766	779
	日数	17	17	16	18	17	15	18	14	15	15	12	18
		(累計)	34	50	68	85	100	118	132	147	162	174	192
土・日曜 祭日	人数	61	33	24	38	78	291	36	58	9	13	54	28
		(累計)	94	118	156	234	525	561	619	628	641	695	723
	日数	7	7	7	5	7	8	7	8	5	5	9	6
		(累計)	14	21	26	33	41	48	56	61	66	75	81
計	人数	79	89	188	186	153	358	165	123	20	38	62	41
		(累計)	168	356	542	695	1,053	1,218	1,341	1,361	1,399	1,461	1,502
	日数	24	24	23	23	24	23	25	22	20	20	21	24
		(累計)	48	71	94	118	141	166	188	208	228	249	273

第7表 年間見学者数

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧  
2003年度

---

2004(平成16)年3月31日 発行

編集・発行 小杉町教育委員会

〒939-0393

富山県射水郡小杉町戸破1511

TEL (0766)56-1511

印刷 日興印刷株式会社

---

